

No. 1367

— 輪 車 —

世界記録に挑戦

省エネ時代だからと言う訳ではありませんがあるテレビ局で、ゴムで動く自動車大会を企画したところ、大勢の人が手製の車で参加。しかし、ゴムでは町の道路を走るといのはちょっと無理なようです。

これは人力自動車。30人の美女たちが、一生懸命頑張ってもスピードは今一息。

高さ20メートルの超高層一輪車に挑戦するのは南米スリナムの少年。これまでの世界記録は16.4メートル。クレーンで建てられた一輪車にまたがりさで挑戦。しかし、この日は風が強く4回とも失敗、世界記録はなりませんでした。

ロマンと騎士道の調べ

— 英 国 フェ ア —

三重県の鈴鹿サーキットではいま、「英国フェア」が開かれています。本場スコットランドからやってきたバグパイプ隊が会場を演奏しながら行進。ガリバー旅行記でおなじみの身長3mもあるガリバーのぬいぐるみがチビッコたちを大歓迎。英国館にはエリザベス1世、ヘンリー8世などの本物そっくりの人形が当時の衣装をまとい並べられ、英国の歴史がひと目でわかるようになっています。素朴で勇壮なバグパイプの演奏、そしてハイランド地方に伝わる「ズフォードダンス」。つめかけた見物客はその華麗に舞う姿に魅了されていました。

珍しい標本づくり

— 神奈川・川 崎 —

まるで生きていような見事な魚のはく製標本。神奈川県川崎市。この町に住む長谷川宗雄さん(53才)はアパート経営のかたわら自宅近くを流れる多摩川の魚類をなんとか後世に残そうと、はく製標本づくりに取り組んでいる。魚は手を触れるだけでウロコがはがれるため取り扱いには細心の注意が必要だ。ヒレや尾をピンで固定しホルマリンづけにしたあと自然乾燥する。そして身抜き。これが一番根気のいる作業、少しでも身が残っていると後で腐ったり、変色したりするという。石こうを流し込み完成させる方法は長谷川さんが10年前から研究したものだ。今までに300個以上を完成させている。標本づくりをしていて気がついたことは多摩川がまたよごれてきたことだという。河口付近では奇形魚やフジツボがついたカニがよく取れる最近長谷川さん宅を「作り方を教えて」と、訪ねる人が多くなった。「標本づくりを通じてお年寄りには生きがいを、子供たちには生きた教材に、そしてクリーン多摩川を推進していきたい」というのが長谷川さんの願いだ。